

## 西洋史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史特論Ⅰ	「インドとイギリス」再考 ——帝国関係から開発 援助・G20へ	2	秋田 茂	集中(1学期)			西洋中近世史特論
西洋史特論Ⅱ	中世イングランドの証 書と社会	2	有光 秀行	2学期	月	4	西洋中近世史特論
西洋史特論Ⅲ	タキトゥスの見たローマ 帝国	2	大清水 裕	集中(1学期)			古代地中海世界史特論
西洋史特論Ⅳ	Л・Д・トロツキーとロ シア革命	2	浅岡 善治	1学期	水	3	欧米近現代史特論Ⅰ
比較文化史学特論Ⅰ	ソ連極東におけるス ターリンの動員政策	2	寺山 恭輔	2学期	金	2	ユーラシア文化史特論 Ⅰ
西洋古代・中世史研究演習Ⅰ	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	1学期	火	4	古代地中海世界史研究 演習Ⅰ
西洋古代・中世史研究演習Ⅱ	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	2学期	火	4	古代地中海世界史研究 演習Ⅱ
西洋古代・中世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有光 秀行	1学期	水	4	西洋中近世史研究演習 Ⅲ
西洋古代・中世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中世史料研究	2	有光 秀行	2学期	水	4	西洋中近世史研究演習 Ⅳ
西洋近現代史研究演習Ⅰ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	1学期	火	2	欧米近現代史研究演習 Ⅲ
西洋近現代史研究演習Ⅱ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	2学期	火	2	欧米近現代史研究演習 Ⅳ
比較文化史学研究演習Ⅰ	ソ連史文献研究Ⅰ	2	寺山 恭輔	1学期	金	4	ユーラシア文化史研究 演習Ⅰ
比較文化史学研究演習Ⅱ	ソ連史文献研究Ⅱ	2	寺山 恭輔	2学期	金	4	ユーラシア文化史研究 演習Ⅱ

科目名：西洋史特論 I / European and American History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (1 学期), 単位数：2

担当教員：秋田 茂 (非常勤講師)

講義コード：LM98827, 科目ナンバリング：LGH-HIS612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：西洋中近世史特論】

1. 授業題目：

「インドとイギリス」再考——帝国関係から開発援助・G20へ

2. Course Title (授業題目)：

Reconsideration of “India and the UK” —— from Colonial relationship to Development Aid and the G20

3. 授業の目的と概要：

近現代の世界史 (グローバルヒストリー) を考察する上で不可欠のテーマである、「植民地主義・帝国主義」、その克服としての脱植民地化・経済開発の問題を、19 世紀—20 世紀前半に最大の帝国を支配したイギリス帝国とアジアの最も重要な植民地であったインドとの関係を事例に再考し、西洋中心主義ではない、新たな世界史を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This class reconsiders the crucial research agendas of modern World-history (Global history), that is “Colonialism, Imperialism, Decolonization and Economic Development” in the 19th-20th centuries, focusing on the relationship between Great Britain and British/Independent India, and proposes a new perspective of World/Global history from Asian perspectives.

5. 学習の到達目標：

- (1) 帝国主義、イギリス帝国の盛衰を、中枢＝周辺相互連関を中心とする「関係史」として理解する。
- (2) 20 世紀末—21 世紀のインドの政治経済的台頭とイギリスの Brexit という現実を、歴史的に考察できる視点を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) To understand the rise and fall of the British Empire and imperialism, as a “relational history” Centered around the Core (Great Britain) and the Periphery. (British India).
- (2) To master new viewpoints for historical consideration on the changing realities of the rise of India and the Brexit at the turn of the 20th-21st centuries.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション——グローバルヒストリーとイギリス帝国・南アジア
2. 吉岡明彦『インドとイギリス』が提起した論点・1——自由貿易帝国主義とマンチェスター
3. 吉岡明彦『インドとイギリス』が提起した論点・2——金融資本論と「本国費」・多角的決済機構
4. 世紀転換期の英印関係・1——綿業の発展とアジア間貿易：ボンベイ、大阪、マンチェスター
5. 世紀転換期の英印関係・2——ジェントルマン資本主義論とロンドン・シティ
6. 世紀転換期の英印関係・3——第一次世界大戦とインド：帝国関係の転換点
7. 戦間期 (1930 年代) の英印関係・1——帝国特惠体制とインド・ナショナリズム
8. 戦間期 (1930 年代) の英印関係・2——日印会商 (ブロック経済論) 再考
9. 戦間期 (1930 年代) の英印関係・3——第二次世界大戦とインド：スターリング残高の累積
10. 戦後の英印関係・1——早期の脱植民地化とコロンボ・プラン
11. 戦後の英印関係・2——インド援助コンソーシアム、重化学工業化とアメリカ
12. 戦後の英印関係・3——「緑の革命」(農業開発) と世界銀行
13. 現代のイギリス——Brexit、ヨーロッパ統合と連合王国の「未来」
14. 現代のインド——インド太平洋世界の形成とインドの開発主義、日本
15. グローバル化時代の歴史学——グローバルヒストリーの課題

8. 成績評価方法：

論述式の筆記試験で行う。

9. 教科書および参考書：

- ・秋田茂『イギリス帝国の歴史—アジアから考える』中公新書、2012 年。
- ・吉岡明彦『インドとイギリス』岩波書店、1975 年 (2019 年復刊)。
- ・秋田茂『帝国から開発援助へ—戦後アジア国際秩序と工業化』名古屋大学出版会、2017 年。
- ・Shigeru Akita (ed.), Gentlemanly Capitalism, Imperialism and Global History, (London and New York: Palgrave, 2002), 255pp. Introduction: from Imperial History to Global History, pp.1-18.

10. 授業時間外学習：

19 世紀末から 21 世紀初頭現在までの、約 150 年間の英印関係史を中心に、新たな世界史を考察する素材を提供する。そのため、幅広い世界史の知識が必要になるため、教科書・参考書だけでなく、関連の諸文献を読んで最低限の歴史の流れを事前に理解するように努力して欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

なし。

科目名：西洋史特論Ⅱ／ European and American History (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM21405， 科目ナンバリング：LGH-HIS613J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：西洋中近世史特論】

1. 授業題目：

中世イングランドの証書と社会

2. Course Title (授業題目)：

Charters and society in medieval England

3. 授業の目的と概要：

中世イングランド史の史料と、その歴史学における利用の仕方を、具体的に理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this course is understanding medieval English sources and how to interpret them historically.

5. 学習の到達目標：

中世イングランド史の史料のあり方と、その歴史学における具体的な利用の仕方を、理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim of this course is understanding medieval English sources and how to interpret them historically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 中世イングランド史の史料とは
3. 同上
4. 同上
5. 証書をいかに読むか
6. 同上
7. 同上
8. デヴォン伯家とその証書
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 証書の文言と社会
13. 同上
14. 同上
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加状況（50 パーセント）とレポート（50 パーセント）。

9. 教科書および参考書：

教室で指示します。

10. 授業時間外学習：

教室で指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：西洋史特論Ⅲ／ European and American History (Advanced Lecture) III

曜日・講時：通年集中 その他 連講

Semester：集中， 単位数：2

担当教員：大清水 裕（非常勤講師）

講義コード：LM98828， 科目ナンバリング：LGH-HIS614J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：古代地中海世界史特論】

**1. 授業題目：**

タキトゥスの見たローマ帝国

**2. Course Title (授業題目)：**

Roman Empire in Tacitus' Annals

**3. 授業の目的と概要：**

ローマ帝政期最高の歴史家とも言われるタキトゥスの『年代記』の読解を通して、歴史学における史料批判の初歩的な実践を行いながら、帝政初期のローマ帝国の政治と社会のあり方を考察する。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

In this course, students will understand the politics and society of early Imperial Rome, by reading critically Tacitus' Annals and other sources.

**5. 学習の到達目標：**

古代ローマ史にかかわる諸史料の特色を理解し、史料に対する批判的な見方を身につけるとともに、帝政初期のローマ帝国の政治と社会のあり方を根拠をもって説明できるようになることを目標とする。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

The purpose of this course is to help students understand the characteristics of sources of ancient Roman history and explain the politics and society of early Imperial Rome based on sources.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. はじめに：タキトゥスという人物
2. 古代ローマにおける「帝政」のはじまり
3. ローマ帝国と軍隊
4. ローマ人とゲルマン人
5. ローマ帝国の地方都市
6. 北アフリカのローマ支配
7. ゲルマニクスの死とピソ裁判
8. セイヤヌスの台頭とティベリウスの隠遁
9. リヨンのクラウディウス演説
10. メッサリナの破滅
11. 帝室解放奴隷たちの台頭
12. 哲学者セネカ？
13. ローマとパルティア
14. ローマ大火とキリスト教徒
15. おわりに

**8. 成績評価方法：**

レポート

**9. 教科書および参考書：**

教科書：特に指定しない

参考書：

タキトゥス、国原吉之助訳『年代記（上・下）』岩波文庫、1981年。

スエトニウス、国原吉之助訳『ローマ皇帝伝（上・下）』岩波文庫、1986年。

本村凌二『地中海世界とローマ帝国』講談社学術文庫、2017年。

長谷川岳男・樋脇博敏『古代ローマを知る事典』東京堂出版、2004年。

**10. 授業時間外学習：**

参考書として挙げたタキトゥス『年代記』（国原吉之助訳、岩波文庫、1981年）に事前に目を通しておくことが望ましい。授業後は、授業で紹介する参考文献を読むことを推奨する。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

科目名：西洋史特論Ⅳ／ European and American History (Advanced Lecture) IV

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（助教）

講義コード：LM13307， 科目ナンバリング：LGH-HIS615J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：欧米近現代史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

Л・Д・トロツキーとロシア革命

2. Course Title (授業題目)：

L. D. Tortsy and the Russian Revolution

3. 授業の目的と概要：

革命家 Л・Д・トロツキー (1879-1940) の思想と行動から、20世紀ヨーロッパ史の展開過程を再検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The theme of this course is to reexamine the processes of European history in the 20th century through the thoughts and actions of Leon Trotsky (1879-1940), "the prophet outcast" of the Russian Revolution.

5. 学習の到達目標：

- ・ロシア革命とその参画者の視座から、ヨーロッパ近現代史の展開過程を把握する。
- ・ヨーロッパ近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

・To grasp the outline of the modern/contemporary European history from the viewpoint of the Russian Revolution and its leader.

・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論
2. 青春
3. 革命
4. 戦争
5. 十月
6. 講和
7. 内戦
8. 論争
9. 復興
10. 闘争
11. 敗北
12. 追放
13. 亡命
14. 刺客
15. 総括

8. 成績評価方法：

レポート試験：100%。

9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用しない。トロツキーの生涯については、アイザック・ドイッチャーの古典的トロツキー伝三部作：『武装せる予言者 トロツキー 1879-1921』、『武力なき予言者 トロツキー 1921-1929』、『追放された予言者 トロツキー 1929-1940』（改訂新版、山西英一ほか訳、新評論、1922年）が、今もなお最も優れた叙述を誇っている。『写真集トロツキー：時代の証言(1879-1940) ロシア革命を生きて』柘植書房、1990年；タリク・アリ／スィル・エヴァンズ『For Beginners トロツキー』現代書館、1981年なども特色ある内容である。

10. 授業時間外学習：

「各論」ながら講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

なし。

科目名：比較文化史学特論 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔（教授）

講義コード：LM25204， 科目ナンバリング：LGH-HIS616J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ユーラシア文化史特論 I】

1. 授業題目：ソ連極東におけるスターリンの動員政策

2. Course Title (授業題目)： Stalin's Mobilization Policies in the Soviet Far East.

3. 授業の目的と概要：

極東共和国併合による 1922 年末のソ連建国以降、1945 年の第二次世界大戦終結までの時期の極東地方と中央の関係、特に中央と地方を接続し、国家の統一的支配に欠かせない役割を果たした交通機関（鉄道、船舶、航空機等）と主要官庁（交通人民委員部）の活動、動員政策の立案・実施に焦点をあて、動員という側面からスターリン統治の実態解明を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The Objective of this course is to explain the Stalin's Rule from the point of view of Mobilization by focusing on the Transportation organizations (railway, shipping, aviation and the Commissariat of Transportation) that play crucial Role in the unified control of the Nation and on the Decision-making process of mobilization plans and its execution, and especially on the Center-Peripheral Relations between Soviet First and Moscow after the Establishment of USSR by the annexation of Far Eastern Republic at the end of 1922 until the end of WWII of 1945.

5. 学習の到達目標：

1. ロシアにおける交通機関（鉄道、船舶、航空機）発展に関する研究史を理解する。
2. 1920 年代のネップ時代からスターリンの独裁的体制の確立にいたるまでのソ連の政治体制、政策決定過程を、特に政治局の役割に焦点をあてて理解する。
3. 輸送・動員を担当していた交通人民委員部の活動、人事を理解する。
4. 動員政策が社会に及ぼした影響を理解する。
5. ロシアにおける史料探索の実際的方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. Understand the historiography of the development of the Russian Transportation(railway, shipping and aviation).
2. Understand the Soviet Political Regime, the Decision-making Process from the NEP era of 1920's to the Stalin's Dictatorship especially specializing in the Role of Politburo.
3. Understand the Activities, Role and Staff of the Commissariat of Transportation taking responsibility for Mobilization.
4. Understand the Influence of the Mobilization Policies to the Soviet Society.
5. Understand the Practical Method of Inquiry into the Russian First-hand historical Resources.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ロシア極東とソ連邦の成立 イントロダクション
2. ロシア極東地域の特徴
3. ロシアにおける交通（鉄道、船舶、航空機）史(1)
4. 同上(2)
5. 政治局と交通問題—1920 年代のシベリア鉄道
6. スターリンの上からの革命：農業集団化、第一次五ヵ年計画
7. カガノーヴィチと交通人民委員部
8. 満洲事変とソ連
9. 1930 年代のソ連極東への動員強化策(1)
10. 同上(2)
11. 同上(3)
12. 同上(4)
13. 国境紛争（張鼓峰事件、ノモンハン事件）と動員問題
14. 独ソ戦争時のソ連極東と動員問題
15. 総括

8. 成績評価方法：

レポート 50%、出席 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。

10. 授業時間外学習：

紹介する参考文献を読んでくること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00

科目名：西洋古代・中世史研究演習 I / History of Ancient and Medieval Europe (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM12406， 科目ナンバリング：LGH-HIS617J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：古代地中海世界史研究演習 I 】

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval European history.

5. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、修士論文等作成にそなえる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読と質疑応答。1 ページを 2 回で読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。

9. 教科書および参考書：

Mireille CHAZAN, 'La representation de l'Empire chez Hughes de Fleury, Orderic Vital et Robert de Torigni', Historiographie médiévale normande et ses sources antiques (Xe-XIIe siècle), dir. Pierre Bauduin et Marie-Agnès Lucas-Avenel, Caen, 2014.

10. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅱ／History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM22405， 科目ナンバリング：LGH-HIS618J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：古代地中海世界史研究演習Ⅱ】

**1. 授業題目：**

中世ヨーロッパ史研究

**2. Course Title (授業題目)：**

Study in the Medieval European History

**3. 授業の目的と概要：**

中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval European history.

**5. 学習の到達目標：**

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、修士論文等作成にそなえる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第1回目から訳読と質疑応答、前期の続きを、1ページを2回で読む予定です。また前期のレポートに関する発表会もおこないます。学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

**8. 成績評価方法：**

授業参加状況（50％）とレポート（50％）。

**9. 教科書および参考書：**

Mireille CHAZAN, 'La representation de l'Empire chez Hughes de Fleury, Orderic Vital et Robert de Torigni', Historiographie médiévale normande et ses sources antiques (Xe-XIIe siècle), dir. Pierre Bauduin et Marie-Agnès Lucas-Avenel, Caen, 2014.

**10. 授業時間外学習：**

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅲ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM13405， 科目ナンバリング：LGH-HIS619J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：西洋中近世史研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

ヨーロッパ中世史料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Sources of Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ラテン語史料の読解力を涵養することを目的とします。中世ラテン語史料を訳読し検討します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of the course is developing reading skills of sources in medieval Latin.

5. 学習の到達目標：

中世ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim of the course is developing reading skills of sources in medieval Latin.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ラテン語史料のうち、叙述史料をとりあげて、文法・文脈両面より検討しながら叙述の流れに沿って訳読し、理解します。進度は参加者全員が理解しながらすすめるように配慮します。

Ralph of Coggeshall の年代記を 1191 年の項目 (p. 33) から読みます。第一回目はイントロダクション、二回目以降は毎回 2 分の 1 ページくらいずつ読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況による。

9. 教科書および参考書：

Radulphi de Coggeshall Chronicon Anglicanum, ed. J. Stevenson, Rolls Series 66, 1875.

10. 授業時間外学習：

所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅳ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Semina) Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM23404， 科目ナンバリング：LGH-HIS620J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：西洋中近世史研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

ヨーロッパ中世史料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Sources of Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ラテン語史料の読解力を涵養することを目的とします。中世ラテン語史料を訳読し検討します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of the course is developing reading skills of sources in medieval Latin.

5. 学習の到達目標：

中世ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim of the course is developing reading skills of sources in medieval Latin.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ラテン語史料のうち、叙述史料をとりあげて、文法・文脈両面より検討しながら叙述の流れに沿って訳読し、理解します。進度は参加者全員が理解しながらすすめるように配慮します。

Ralph of Coggeshall の年代記を前期の続きから読みます。毎回 2 分の 1 ページくらいずつ読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況による。

9. 教科書および参考書：

Radulphi de Coggeshall Chronicon Anglicanum, ed. J. Stevenson, Rolls Series 66, 1875.

10. 授業時間外学習：

所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：西洋近現代史研究演習 I / History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM12209， 科目ナンバリング：LGH-HIS621J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：欧米近現代史研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

欧米近現代史研究方法論

2. Course Title (授業題目)：

History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)III

3. 授業の目的と概要：

欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.

5. 学習の到達目標：

- ・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
- ・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- ・To grasp contents of the original text accurately.
- ・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 中間的総括に向けての課題の整理
15. 中間的総括

8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

9. 教科書および参考書：

テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ／ History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM22306， 科目ナンバリング：LGH-HIS622J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：欧米近現代史研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

欧米近現代史研究方法論

2. Course Title (授業題目)：

History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅲ

3. 授業の目的と概要：

欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.

5. 学習の到達目標：

- ・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
- ・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- ・To grasp contents of the original text accurately.
- ・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 中間的総括に向けての課題の整理
15. 中間的総括

8. 成績評価方法：

出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

9. 教科書および参考書：

テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：比較文化史学研究演習 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔（教授）

講義コード：LM15404， 科目ナンバリング：LGH-HIS623J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ユーラシア文化史研究演習 I 】

1. 授業題目：

ソ連史文献研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Reading texts of Russian and Soviet History I

3. 授業の目的と概要：

ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことでロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

To improve the ability in reading Russian and English texts about Russian and Soviet history. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it. Text selection depends on the level of the students.

5. 学習の到達目標：

1. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。
2. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. Improve the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Simultaneously to learn the practical method to inquiry and cite the References.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数配布し、発表すること。以下、毎週同じ。

8. 成績評価方法：

授業への出席（50%）と報告の内容（50%）によって判定する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：

発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00

事前にメールや電話で連絡しておくこと。

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ／ Comparative Studies of Cultural History(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔（教授）

講義コード：LM25403， 科目ナンバリング：LGH-HIS624J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ユーラシア文化史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

ソ連史文献研究 Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Reading text of Russian and Soviet History Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

前期と同じ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

前期と同じ

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

前期と同じ

8. 成績評価方法：

前期と同じ

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：

発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

オフィスアワー 金曜日 16：00－17：00

事前にメールや電話で連絡しておくこと。

